SSD PJ

スギ平角のJAS機械等級区分製材供給

来春に納期約2週間

公共建築向けに8メートル材も用意

国産材品質表示推進協議会SSD（スーパー・スモークド・ドライ）プロジェクト（中村暢秀会長、事務局＝紅中西部営業部内）は6日、大阪で「国産スギJAS機械等級区分製材　球磨杉　Jポスト（構造用製材　正角）・Jビーム（同　平角）供給開始記念講演会」を行った。Jポスト・Jビームの性能は共にE70以上・SD20以下（Jビームで梁背390㍉以上はE50以上・SD25以下）で今月中旬からプレ供給を開始、2015年春をメドに受注～納品のリードタイム約2週間の本格的な供給体制を整える。供給エリアは紅中西部営業部の営業エリアである関西・近畿が中心。3階建てなど構造計算が必要な物件や公共建築物対応としての需要を想定しており、このうち公共建築物対応の充実として来春までにJビームで長さ8㍍商品のラインアップを整える予定だ。

近年、都市部やその近郊で事業を行う地域工務店の間で、工業化住宅との差別化要素として国産ムク材を構造梁の現しで使用することを望む傾向が出ている。しかし、市場で安定的に調達できる国産JAS製材品が少ないため、多くが集成材を使い代替しているのが現状だ。また、今後出始める公共建築物がらみの木造需要は、構造強度担保の必要から、物件の構造計算が必須条件になるとみられている。Jポスト・Jビームの供給は、こうした市場ニーズに寄与することになる。

講演会の隣接会場に展示されたJビーム（上）と、挨拶する中村会長

Jビームはプロジェクトで開発したSSD製造法で生産し、梁背360㍉までは芯去り材、同390㍉以上は非JAS扱いの芯持ちで供給する。同製法は、丸太状で燻煙熱処理を行い木材の内部応力を緩和したのちに製材、その後に仕上げ乾燥を行い、表面・内部の割れを抑制しつつ乾燥後の反りを防ぐ手法。来春までに、長さ8㍍の2サイズの梁背商品（150㍉×360㍉、150㍉×450㍉）の供給態勢を整える。Jポストは高温乾燥のみ行うことでの中割れを防ぐため、一定時間120℃前後の高温乾燥ののちに80～90℃の中温乾燥に切り替え、Jビーム同様に表面・内部の割れを抑制する乾燥法を採用している。

6日の記念講演会には、加工・流通事業者や工務店など約100人が参加。冒頭、中村暢秀会長（紅中会長）や、木材の原産地である熊本県球磨郡湯前町の鶴田正己町長が挨拶に立ち、Jポスト・Jビーム普及の意義について言及した。その後、元秋田県立大学教授で現㈱木材研究所の小林好紀所長が「木材物理から紐解く丸太状熱処理と芯去り製材」、東京大学生産技術研究所の腰原幹雄教授が「設計者の使いたい木」と題する講演を行った。

挨拶に立った中村会長は、国内の森林資源が、量が充実する一方で消費が思うように伸びない一因として、木材供給側がユーザーの求める商品を供給していないと指摘。その上で「こうした風潮に風穴を開けたい。10年にわたり試行錯誤を繰り返し、やっと球磨スギのJAS機械等級区分として製材商品ができた。皆さんの役に立つと思う」と発言し、Jポスト・Jビームに寄せる期待と自信の程を示した。

2014年11月13日（木）
住宅産業新聞